

SDGs（持続可能な開発目標）とは、  
“2030年までに達成すべき17の目標”

「SDGs（エスディーゼズ）」とは、  
「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

SDGsは「17の目標」と「169のターゲット（具体目標）」でできています。

SDGs5つの分類とは

People（人間）：世界の貧困をなくす

- ①貧困をなくそう
- ②飢餓をゼロに
- ③すべての人に健康と福祉を
- ④質の高い教育をみんなに
- ⑤ジェンダー平等を実現しよう
- ⑥安全な水とトイレを世界中に

Prosperity（繁栄）：「つづく経済」をつくる

- ⑦エネルギーをみんなにそしてクリーンに
- ⑧働きがいも経済成長も
- ⑨産業と技術革新の基盤をつくろう
- ⑩人や国の不平等をなくそう
- ⑪住み続けられるまちづくりを



Planet（地球）：環境を守り育てる

- ⑫つくる責任つかう責任
- ⑬気候変動に具体的な対策を
- ⑭海の豊かさを守ろう
- ⑮陸の豊かさを守ろう

Peace（平和）：SDGsを実現する仕組み

- ⑯平和と公正をすべての人に

Partnership（協働）：SDGsを実現する資金と協力関係

- ⑰パートナーシップで目標を達成しよう
- の目標が掲げられています。



ニュースレター1号

## SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業



### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



平成30年（2018年）から3年間千葉県内での実施を計画している、「SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業」報告のために発行するニュースレターです。多くの県民の皆様とこの事業の経過を共有いただき、今後ともご協力いただけますようよろしくお願いいたします。

発行：特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

# NPO 環パちばパートナーズミーティング

## SDGs 達成のための ESD 担い手育成事業がスタートしました

特定非営利活動法人環境パートナーシップちばの平成30年度の主な事業「SDGs達成のためのESD担い手育成事業」のスタートアップ事業として、6月25日きぼーる（千葉市）で開催し、参加者は講師を含め35名で開催しました。

開催の趣旨は、背景の課題に、環境保全活動の担い手不足があること、2030年までのSDGs達成のための課題解決に向けて、持続可能で多様な視点を取り入れたESD（Education for Sustainable Development）のプログラムも必要であることから、当会で3年間取り組む事業としました。

この事業スタートにあたり、SDGsとESDについて共有するために開催しました。

### ■プログラム

- 14:00 第一部  
「SDGs達成のためのESD担い手育成事業」趣旨説明  
(特非) 環境パートナーシップちば
- 14:30 講演「SDGsとESDをよく理解するために」  
[講師] 島田 幸子氏 (関東地方ESD活動支援センター、関東地方環境パートナーシップオフィス [関東EPO])
- 15:30 「SDGs 達成のためのESD担い手育成事業」を展開するための意見交換  
ファシリテーター 石井 雅章氏 (神田外語大学)
- 16:10 第二部  
「地域版ESDモデルプログラムづくり」  
第1回「ESDプログラムの作り方」  
[講師] 大塚 明氏 (持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J) 理事)

第一部の講演の島田氏は、SDGsについて解説されました。「SDGs」と「教育」について、教育はSDGsの目標4に位置付けられESDは目標4の中のターゲット4.7に記載されています。

教育が全てのSDGsの基礎であり、ESDをより一層推進することがSDGsの達成に直接、間接につながっていると述べられました。

意見交換会では、石井ファシリテーターのもと、当会の事業に「ワクワクする」「モヤモヤする」のテーマで、グループごとに話し合い、全体で共有しました。

「ワクワクする」では、方向性が見つかるかも。新しいつながりができる。

「モヤモヤする」では、今までと何が違う。マジックワードに振り回される等がありました。

第二部は、地域版ESDモデルプログラムづくりに関わる方を対象に開催しましたが、第一部の参加者で聞きたい方も、参加されました。

講師の大塚氏は、学校や地域でのESDの授業に取り組むために、ESDプログラム作りのポイントについて話されました。

大塚氏は伊豆市立天城中学校校長の時に、生徒の自尊感情が特に低い！との課題から「もっと自分に自信を持ってほしい！」と他の先生たちとも共有しながら、ESDの視点を入れた取り組みをスタートされました。

ポイントは、各教科・道徳・特別活動との横断的なつながりの見直し、カリキュラムとしてESDカレンダーを作成し実施。目標は「21世紀を『生きる力』を身につける」。

また、ESDの要素とESDで重視する能力、態度についても話されました。

講演を受けて、エネルギー、生物多様性、資源循環、水環境の4分野に分かれ、環境省が全国で展開したESDプログラムを見本に、ESDの視点を学ぶためのプログラムを探しました。

今後、ESD担い手育成事業、SDGsを進めるプラットフォームづくりを展開します。

### 【当会の事業活動】3事業

- ① ESD地域リーダー育成事業 (6回開催)
- ② SDGsを進めるプラットフォームづくり (3回開催)
- ③ 情報の収集と発信

### (事業スケジュール)

SDGs や ESD の理解 (研修会)	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ESD 地域リーダー育成事業 (モデルプログラムづくり)	第1回	第2回		第3回		第4回	第5回			第6回
SDGs を進めるプラットフォームづくり			第1回	第2回						第3回
ニュースレターの発行			第1回			第2回				第3回
ニーズ調査			開始				まとめ			

### ＜申込・問い合わせ先＞

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば

<http://kanpachiba.com/>

<https://www.facebook.com/npokanpachiba/>

E-mail: [info@kanpachiba.com](mailto:info@kanpachiba.com)

TEL: 090-8116-4633

この事業は、地球環境基金の助成を受けて実施しています。



## ESD の取り組み



自然・文化・社会・経済は、互いに働きかけあうシステムであり、人もそれらとつながりを持ち、人同士も関わり合って相互に作用していることを認識することが大切です。



自然・文化・社会・経済を成り立たせている環境要因や資源は有限であり、それらに支えられた社会発展には限界があることを知るとともに、将来世代のために有効に使用していくことが大、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。



持続可能な社会を構築するためには、一人一人が責任と義務を自覚し、望ましい将来像に対する責任あるビジョンを持って、他人任せにせず自ら進んで行動することが大切です。



持続可能な社会の構築・維持には、多様な主体の連携・協力が不可欠であり、意見や立場が違っていても、適宜順応・調和を図りながら、互いに協力して問題を解決していくことが大切です。



持続可能な社会の基盤は、一人一人の人権や生命が尊重されることです。権利の保障や恩恵の享受は公平である必要があります。地域や世代を超えて保持されることが大切です。



自然・文化・社会・経済は、多種多様な事物から成り立っています。そうした多様性を尊重するとともに、事物・現象を多面的に見たり考えたりすることが大切です。